

使用上のご注意

絶縁測定について

過電圧検出の回路構成上、絶縁測定に際しご注意ください。遮断器に貼ってあります注意シールにもとづき絶縁測定してください。

テンパールの単3中性欠相保護付遮断器はJIS C-8371に基づいて製作しています。

JIS C-8371	定格動作過電圧	135V
	定格不動作過電圧	120V以上
	定格過電圧動作時間	1秒以内

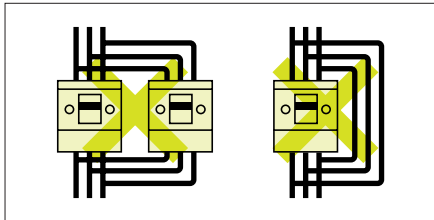
動作【漏電遮断器】

遮断器の動作により電気の供給が長時間停止すると支障が出る場合(養殖場等)は用途に合わせて警報スイッチ仕様、補助スイッチ仕様をご検討ください。

並列接続、バイパス接続

【漏電遮断器】

並列接続、バイパス接続は漏電遮断器が誤動作し、トリップコイルが焼損しますのでご注意ください。



単相3線式回路への接続

【漏電遮断器】

単相3線式回路へは、中性線欠相保護付漏電遮断器をご使用ください。

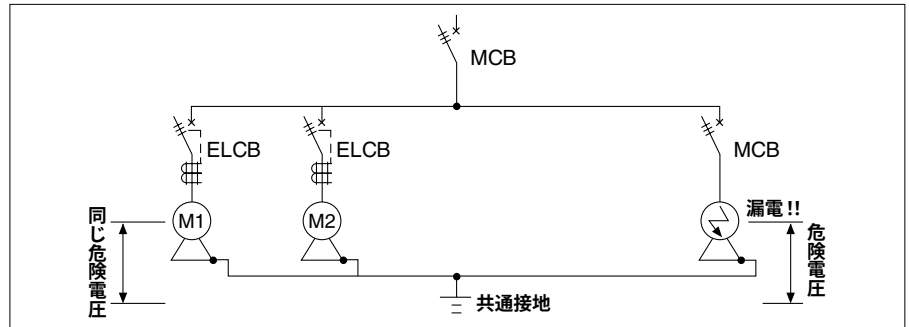
（関連内線規程について(抜粋)）

- 1375節 漏電遮断器など
1375-2 漏電遮断器などの選定
5. 単相3線式回路に施設する漏電遮断器は、中性線保護機能付きのものとする。

共通接地【漏電遮断器】

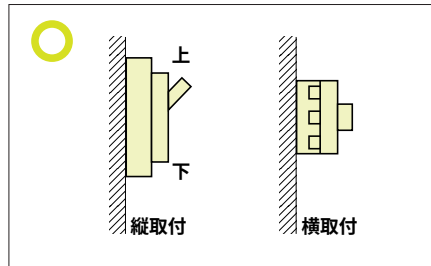
複数の電動機回路等において、漏電遮断器を取付けた電動機と、取付けない電動機のアース線を共用にいたしますと、万一漏電遮断器を取付けていない方の電動機で漏電があった場合、その対地電圧が共通接地線を通じて、漏電遮断器のある方の電動機に

も危険電圧が生じることになります。この時は、その漏電遮断器は動作しませんので、大変危険です。このように共通接地をとった機器については、全回路へ漏電遮断器を取付けてください。

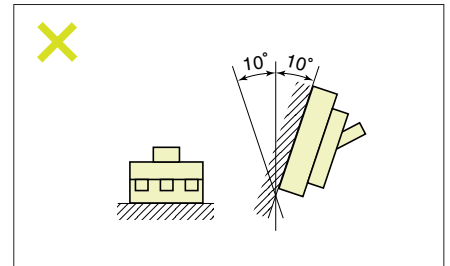


取付方向

■良い例



■悪い例(完全電磁形)



■ご注意

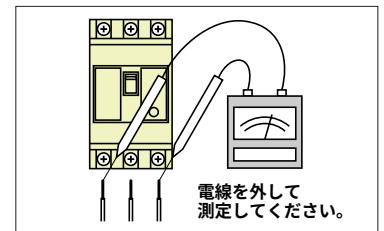
遮断器は鉛直面取付が基本です。

熱動形、熱動電磁形の場合は、その他の取付面でも問題はありません。

完全電磁形のものにおいては、鉛直面取付(10°以内)以外の取付では特性が変化しますので、ご注意ください。

絶縁測定時のご注意事項【漏電遮断器】

下表の△印のところの絶縁測定は、測定しても故障しませんが内部回路により、絶縁抵抗計の指示値はほとんど零です。線間の絶縁測定をされる場合は、端子から電線を外して測定してください。



	絶縁抵抗測定(500V以下)			
	漏電遮断器		単3中性線欠相保護付漏電遮断器	
ハンドルの状態	ON	OFF	ON	OFF
充電部—大地間	○	○	○	○
左—中、中—右極間	○	○	△	△
左—右極間	電源側	△	△	○
	負荷側	△	△	△
電源—負荷端子間	—	○	—	○